

## ⑨ 木村資生

☆中学校三年 一学期実施

### 主題 自分を信じて

A(5) 真理の探究、創造

#### 一 醸成したいおかげの心

多くの人に批判されながらも研究を続けた岡崎の偉人から学ぶ、真実や真理を求め続ける心

#### 二 教材 「ダーウィン・メダル」

『岡崎市現職研修委員会道徳部自作資料』

資生は、集団遺伝学という新しい分野を、たった一人で切り開くため努力を続けました。当時、絶対的な支持を得ていたダーウィンの進化論とは、異なる説をもつに到りました。資生の発表した「分子進化の中立説」は、世界中から多くの批判を受け「悪魔に会ってきた」とまで言われます。しかし、資生は、自分の研究に信念をもち、追究を続け、やがて正しさが証明されるのでした。

#### 三 本時のねらい

- (1) どんなに批判をされても考えを曲げなかった、資生の意志の強さに気付かせる。
- (2) 自分の考えをもつことや、信念を貫き通すことを大切にしようとする気持ちを高める。

#### 四 発問例

発問① 『生物学に数学など役に立たない』『悪魔に会ってきた』と批判された資生は、どんな気持ちだったでしょうか。

- ・自分の考えた方法は正しい
- ・いつか認めてもらえるだろう
- ・悔しくてたまらない
- ・なぜ誰もわかってくれないんだ

発問② 「批判され続けた資生を支えたものは、何だったのでしょうか。(中心)」

- ・これまで地道に研究を続けたことの自信
- ・自分が考え出した説は、絶対に間違っていないという自信
- ・真実や真理を探究したいと思う気持ち
- ・自分のことを支えてくれた人たちのために、諦めるわけにはいかないという思い

補助発問 『ダーウィン・メダル賞』をもらったとき、資生はどんな気持ちだったでしょうか。

- ・自分の研究はやはり正しかった
- ・真実を追い求めて努力して良かった
- ・これまでの考え方にとらわれず、知りたい気持ちに正直でよかった
- ・あきらめずに研究を続けてきてよかった

(自覚) 「資生の姿から、どんなことを学びましたか。」

- ・自分の信念を貫き通すことの大切さ
- ・あきらめずに努力する姿勢
- ・新しい考え方を生み出すことのすごさ
- ・研究を続けること